

ン夫人は、佛國人の食卓に於ける風習を論じて曰く、佛國に於ては、人を集まりて會食するるとき、吾等に異なりたる風習あり、例へ其人數は八九人の小會にては、談話は必ず全躰の人に對して爲すを常とし、隣席の人と對談を爲すが如きは、無作法なることなりと認めらる、故に一般に對する談話は食鹽の如く、麵包の如く、葡萄酒の如く、共通のものにして、其談話は頓智と善意とに富み、極めて爽快に且つ興味を有し、聞くものをして覺えず心身を興奮せしむ、又佛人は巧みに談話することを好み、自國語を以て社交上最も美なる且つ最も便なるものとなすが如し、蓋し之れ正當の見解にして、佛人は之が爲に發音に注意し、言語を選択し、熟練なる且つ纖麗なる談話に努むるなり、之れ吾等の大に學ぶべき所なりと。(同上)

婦人と齒

婦人は比較的的男子よりも齒を破壊し若しくは齒を病むもの多く殊に妊娠の後は齒牙に送る營養分がへりますから齒痛を患るものが多いので子兒に乳を吞ませる時季も又同じ又外國に比するに日本の小兒の齒を患るもの多し主として其の母親の不注意に基くもので要するに齒の掃除の行届かざるに因るものにて彼のミンツバの如き成長の後有害の原因となるものもあまり注意を引くとなきは誠に嘆息の至りなり。

(婦人衛生雜誌)

